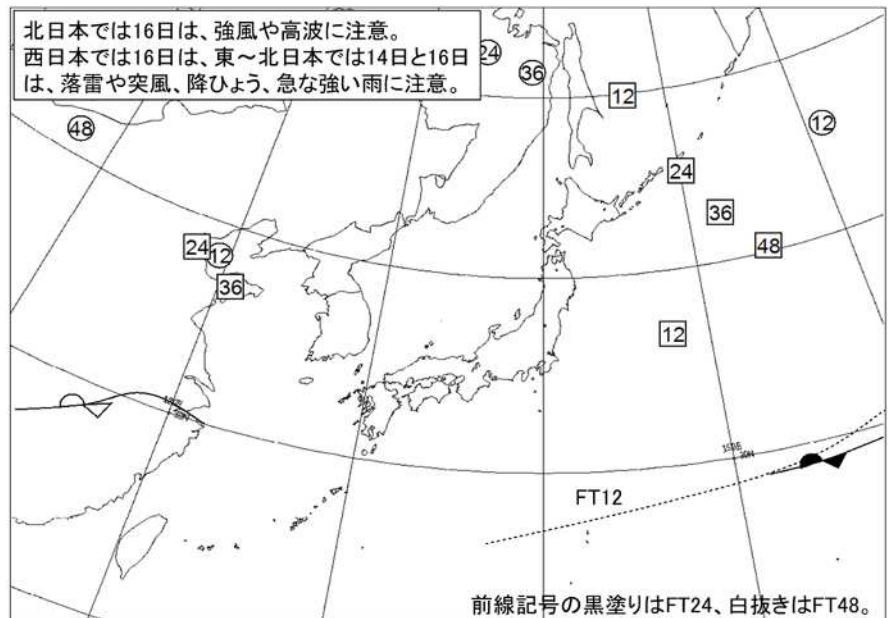


1. 実況上の着目点

- ① 日本の東に高気圧があって、東北東に移動。日本付近は高気圧に覆われ、北海道地方の一部を除き、広く晴れている。
- ② 500hPa5760m付近に -15°C 以下の寒気を伴ったトラフが日本海にあって、東進。
- ③ オホーツク海に高気圧があって、南に移動。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、14日は日本の東をゆっくり東へ移動する。14日は日本付近は高気圧に覆われ、全国的に晴れて気温が上昇し、広く夏日となり真夏日になる所もある。
- ② 1項②のトラフは14日に本州付近を通過する。東日本と東北地方では上空寒気に2項①の高気圧後面の湿った空気の流入や、日射による気温の上昇の影響が加わり、大気の状態が不安定となり、山沿いを中心に対流雲が発達し、雷を伴った強い雨の降る所がある。東日本と東北地方では14日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の高気圧は南東に移動し、16日には日本のはるか東に中心を移す。この高気圧とオホーツク海の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では16日は、強風や高波に注意。
- ④ 500hPa5700m付近の -18°C 以下の寒気を伴うトラフが、16日に北日本を通過する。上空寒気に850hPa $\theta_{e318\text{K}}$ 以上の下層暖湿気の流入、日射による昇温の影響が加わり、大気の状態が不安定となり雷を伴った強い雨の降る所がある。東～北日本では16日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ⑤ 500hPa5820mの正渦度移流に対応して、15日夜までに華中で前線が顕在化し、16日は西日本にのびる。前線に向かって850hPa $\theta_{e336\text{K}}$ 以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となり雷を伴った強い雨の降る所がある。西日本では16日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。